



「終戦記念日」と「終戦の日」

今年は、終戦から70年。各メディアは、それに合わせたさまざまな企画を組み、連日のように報道している。下野新聞の「とちぎ戦後70年」のシリーズを読むと、栃木県内の戦時体制下の人々の様子が分かり、戦争を知らない世代として知らなければならないことばかりである。私の亡くなった父は終戦時17歳、戦争の話はほとんどしたことがなかったが、ただ中島飛行場宇都宮製作所で飛行機の尾翼を組み立てていたと言っていたことを思い出す。

昭和20年8月15日。この日を、あるメディアは「終戦記念日」と言い、また別のメディアは「終戦の日」と言う。NHKは「終戦の日」を放送では使っているが、その理由を「記念日」という語感には喜ばしい出来事となるべく長く覚えておきたいという気持ちが込められており、「終戦記念日」と表現することに抵抗を感じる人も多いので、としている。

なお、この日は公式には「戦没者を追悼し平和を祈念する日」と呼ぶ（1982年閣議決定）。

また、終戦の日の定義には諸説ある。

1. 1945年8月14日 ポツダム宣言受諾を通告
2. 1945年8月15日 玉音放送にて国民に降伏を公表
3. 1945年9月 2日 降伏文書（休戦協定）に調印
4. 1952年4月28日 サンフランシスコ講和条約の発効



言の葉、ひらり

同音異義語・同訓異義語の使い分け、似た言葉で間違いやすい使い方等、校正中これでいいのかともやもやした気持で仕事を進めると後味が悪い。調べると宙に舞っていた言の葉の意味がひらりと掌に落ちて、すっきりする。

上の記念に関連するが、「きねん」の漢字に注意を要する例を挙げる。

広島で8月6日に行われるは、平和「記」念式典、資料館は、平和「記」年資料館。8月9日の長崎は、平和「祈」念式典、資料館は平和「祈」念館、沖縄は、平和「祈」念資料館であり、それぞれ別の表記となっている。

上記では、「記念」の語に良いことのみに使われるイメージがあるとの説明になっているが、広島市が「記念」を使っているのは、本来「記念」には、良いことに限った意味ではなく、「記」はしるす・書き留める、「念」は思いという意味で、「記念」は思いをしておくことであるとの認識から、「8月6日を市民が永久に忘れてはならない日」とし、平和への誓いを将来に伝え残すという意志を強調した表現」と位置づけているからである。（NHK「トクする日本語」より）



8月歳時記 葉月（はづき）

- 1日（土）八朔………八月朔日の略。朔日（さくじつ）はついたち。旧暦では初穂を贈る風習があった
- 5日（水）夏土用二の丑………この夏2回目の丑の日。土用の期間は、土を掘り起こしてはいけないとされる
- 8日（土）立秋………秋の氣配立つ。この日から残暑見舞い、出すのは8月末まで
國男忌：柳田國男 ……『遠野物語』の幽霊の話は恐い
- 15日（土）お盆………正式には盂蘭盆会（うらぼんえ）。梵語でウランバナ
- 22日（土）藤村忌：島崎藤村 ……詩「初恋」は日本の浪漫
- 23日（日）処暑………暑さが和らぐ。台風のシーズンでもある
- 24日（月）くちなみ忌：中野重治 ……詩「歌」の中の「赤まんま」が印象に残る

●葉月は、葉落（はおち）月から。旧暦の8月は秋。

●精霊…お盆に帰って来る死者の魂は精霊（しょうりょう）、常世（とこよ）の国（海の彼方にある理想郷、日本人の古代信仰）に旅立った人たちの靈魂のこと。現世（うつしよ）に残った靈魂を幽霊・亡靈などと言う。

●栃木市の百八灯流し…巴波川（うずまがわ）にて舟の端に火を灯した108本のローソクを並べ煩惱をはらう。市の無形民俗文化財。今年は8月2日（日）の予定。

竹沢メモ

7月から本格的な暑さが続き、部屋でクーラーにあたりながら過したり、冷たい飲み物をついつい沢山飲んでしまい、快適ですが控えめを心がけています。先日実家に帰り実家の麦茶を飲んで懐かしくなりホームシックにかかりました…。自分の部屋はまだあるものの自転車が置いてあったり物置状態。テレビが無いのでラジオを聴いたりして過しました。

